

仙台第二高等学校

教育目標 至誠業に励み 雄大剛健
の風を養い ともに敬愛切磋を怠らず



1 基本データ

創立：明治33年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：956名
所在地：〒980-8631
仙台市青葉区川内澁橋通1
TEL：022-221-5626
FAX：022-221-5628

ホームページアドレス：<https://sen2-h.myswan.ed.jp/>
学校代表メールアドレス：sen2-h@od.myswan.ed.jp
主な交通機関
仙台市営地下鉄 東西線 国際センター駅下車 徒歩4分
仙台市営バス：仙台駅バスターミナルより
730 系統交通公園・川内(営)行き 739 系統交通公園循環
宮城交通バス：仙台駅前より 広瀬通経由川内亀岡行き
いずれも 二高・宮城県美術館前下車 徒歩1分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

文武一道

本校の大先輩、柔道家三船久蔵十段のことは、学業と部活は相反するものではなく、人間形成のためには両者を等しく追求することが不可欠であるとの信念に基づくことばです。

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治33年に宮城県第二中学校として創設以来、百二十余年の歴史と伝統を有する学校です。青葉山の麓、広瀬川の清流に臨み、近隣には東北大学や県美術館、仙台市博物館、仙台国際センターなどがある文教地区に位置しており、まさに「学都仙台」を象徴する学校といえます。校内には150本を超える桜をはじめ、樹齢数十年のヒマラヤスギが林立し、あたかも森に囲まれたような見事な景観を呈し、学校生活に潤いを与えてくれています。

今後、校舎の老朽化に伴い、大規模なリニューアルが予定されており、さらに快適な環境で学習に励むことができるようになります。

学校的主要施設の概要は以下のとおりです。

- ・校地面積：56、965㎡
- ・運動場：硬式・軟式野球場、ラグビー・サッカー場、テニスコート4面
- ・建物：管理棟(南校舎2階建)、教室棟(北校舎3階建・各教室冷暖房完備)、理科教室棟、家庭科実習棟、食堂、図書館、講堂、柔剣道場、体育館、50mプール、弓道場、北陵館(百周年記念館)

(2) 教育方針

《育てたい生徒像》

- ① 真摯な姿勢で物事に対処できる、度量が大きく、心豊かな若者
- ② 自らの主体的な行動により、社会に貢献し、グローバルに活躍する人材
《中・長期的目標》
 - ① 幅広い教養と確かな学力の保証
 - ② 主体的な進路選択とその実現
 - ③ 人格の練磨と自主自律の精神の伸張

- ④ 「本物」に触れる機会の提供、豊かな感性と情操の涵養
- ⑤ 開かれた学校づくりの推進

《本年度重点目標》

かけがえのない自他の命を大切に、心身ともに健康な生活を送る

- ① 授業第一主義のもと、生徒の主体的な学習態度の育成と質の高い授業づくりを追求する
- ② 学習指導要領に基づいた指導の徹底と高度な探究活動の実践により、生徒の資質・能力の向上を図る
- ③ 大学入試への適切な対応により、生徒一人一人の進路目標達成を支援し、学校全体の進学実績を高める
- ④ 基本的な生活習慣を確立するとともに、自主自律の精神・態度を育成し、生徒の学校内外における生活の質を高める
- ⑤ 一人一台端末の活用を推進し、ICTによる教育活動を発展させることで、多様な学びの環境を整える

(3) 教育課程の特徴

- ① 選択科目の設定
1年次は共通履修を基本として編成し、2年次からは文科系・理科系の類型制を設定しています。1年は芸術、2年は理科と地理歴史、3年は進路に応じた科目を選択することになります。
- ② 個に対する指導
国公立大2次試験、私大受験に対応するため第3学年に選択制を導入しています。長期休業講習に加え、平常講習、個別添削指導、小論文指導などを実施し、生徒の要望に応えています。
- ③ 教育課程
授業は1時限を45分、一日7時限で実施しています。また「総合的な探究の時間」を通して知的探究心を高めるとともに、学問的かつ人間的な視野を広げ、個々の資質の伸長を図っています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

- ① 主な行事
4月 大運動会
5月 仙台二高・一高硬式野球定期戦
6月 芸術鑑賞

北陵グローバルゼミⅡ(2年生)
7月 アメリカ研修(2年生)
未来キャリア創造プロジェクト(1年生)

- 9月 北陵祭(文化祭)
- 10月 秋季体育大会
- 12月 北陵グローバルゼミⅠ(1年生)

② 生徒会活動

自主・自立の精神のもと、生徒自身の手によって主体的に運営されています。年2回の総会では激論が展開され、12ある委員会も活発に活動しています。また、北陵祭(文化祭)における実行委員諸君の献身的な活躍にも特筆すべきものがあります。

③ 部活動

運動部が21部、学芸部が12部、そして愛好会も多数あります。兼部も認められています。各部活動は活発に活動しており、学校HP等でその活躍を紹介しています。

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

| 進路 | R7 | R6 | R5 |
|--------|-----|-----|-----|
| 国公立大学 | 148 | 150 | 157 |
| 国公立短大 | 0 | 0 | 0 |
| 私立大学 | 36 | 47 | 48 |
| 私立短大 | 0 | 0 | 0 |
| 専各学校 | 1 | 0 | 0 |
| 大専校・就職 | 1 | 1 | 1 |
| その他 | 127 | 117 | 106 |
| 卒業生計 | 313 | 315 | 312 |

主な進路先(令和7年3月卒業生)、

()内は人数 (1)は省略

<国公立大学>

北海道大(6)、弘前大(1)、岩手大(3)、東北大(60)、秋田大(1)、山形大(18)、茨城大、筑波大(2)、群馬大、千葉大(2)、東京大(2)、東京外大(3)、東京学芸大(5)、東京科学大(3)、東京農工大(2)、横浜国立大(2)、新潟大(3)、富山大、金沢大(2)、静岡大、名古屋大、滋賀大、京成大(5)、大阪大(3)、神戸大(3)、熊本大、宮城大(3)、国際教養大、福島県立医大(2)、高崎経済大、東京都立大(3)、横浜市立大

<私立大学>

青山学院大、慶応大(5)、上智大、中央大(2)、東京理大(2)、明治大(3)、東洋大、法政大(2)、早稲田大(11)、同志社大、東北医薬大、東北芸工大他、

<大専校・海外大学>

防衛医科大学校

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍

令和7年度 全日本アンサンブルコンテストサクソフオーン四重奏出場
令和7年度 宮城県吹奏楽コンクール県大会金賞(39年ぶり)

全日本アンサンブルコンテスト初出場 サクソフオーン四重奏



全国大会出場メンバー
写真左から、
関本圭佑(仙台市立吉成中出身)
高橋美菜(仙台市立高森中出身)
上松咲愛(仙台市立錦ヶ丘中出身)
戸津美紗子(仙台市立八木山中出身)

令和8年3月に行われた第49回全日本アンサンブルコンテストに仙台二高吹奏楽部のサクソフオーン四重奏が出場した。1月の県大会、2月の東北大会を経て、2校しかない東北代表枠を獲得した。全国大会でも自分たちの演奏をつらぬき、見事銀賞を獲得。金賞という目標は達成できなかったが、全国の猛者たちと共演したことは何物にも代え難い貴重な経験となった。

吹奏楽部は県吹奏楽コンクールでも団体金賞を受賞しており、これも39年ぶりの快挙であった。日々の活動を通して磨き上げたハーモニーは観衆を魅了するところまで昇華されている。ここからさらに自分たちの音楽を作り上げていくことがこれからの課題だ。

(2) 主な学校行事① 北陵グローバルゼミ I

「総合的な探究の時間」の一環で、12月中旬の2日間、1年生を対象に1泊2日で実施される活動だ。昨年度は裏磐梯のリゾートホテルに宿泊して研修を行った。

海外から日本に留学している大学生25名を日本中から招聘し、文化・宗教・思想・背景が全く異なる留学生たちと様々な観点で世界についてオールイングリッシュで語り合う貴重な経験だ。グローバルに活躍する人材になるために、高校生の今でできることを探り、課題を発見・探究するきっかけにしている。

〈実施後のアンケート結果〉

- ・プログラム全体の満足度…99%(「満足」、「非常に満足」の回答率)
- ・プログラムに参加して自分の中で変わったと思うこと
「世界の事をもっと知りたいと思った」と回答した生徒…96%
「将来の夢や目標を持つための参考になった」と回答した生徒…90%

感想から

・参加する前は英語で会話が成り立つか不安だったが、わからない英語表現を留学生の方々の方がわかりやすく言い換えてくれたおかげで授業についていくことができた。参加してとても楽しい雰囲気だった一方で、授業内容は性自認やジェンダーギャップについて日本以外の国々実情を聞くことができ、今世界中の国々で様々な性別の人たちがそれぞれどのような立場に置かれているのか日本と比較しながら知り、その解決策を班員と議論できてとても興味深い経験ができた。

・じっくり考えて文章を考えている普段の学習よりも、その場で伝えたいことを限られた知識で、どんなに拙くても言葉にすることでとても勉強になった。



(2) 主な学校行事② 仙台二高・一高硬式野球定期戦

「社の都の早慶戦」と言われる伝統行事。明治33(1900)年開校と同時に始まり、本家の早慶戦よりも歴史は深い。両校の野球部は全校生徒の応援を背に、誇りをかけて戦いを繰り広げる。応援によって力を得た両校の選手たちの必死のプレーは深い感動を巻き起こす。令和7年の定期戦は、白熱した打撃戦となったが、2-16で惜しくも敗れた。

〈応援団から〉

第107代応援団長 佐藤紫音(仙台市立愛宕中学校出身)

私が応援団幹部になった理由は、人と違う事をしたいから、ただそれだけだった。そのときの私はまだ、二高に息づく伝統の重みと、それを後世に繋いでいく責任を理解していなかった。

2年前の定期戦はまだ、コロナ禍の影響を強く受けていて、数年前までの所謂「普通」と呼ばれていた形ではなかった。その後災禍は日常に馴染んでいったが、応援練習を含め、私たちの定期戦は元の姿に戻らなかった。「例年そうだから」。その言葉で済まされていたやり方は、流れる時代に擦られ、削れたり、変形したりせざるを得なかった。

とはいえ、私はそれも伝統にとって必要なことだと考える。伝統を重んじ、過去のやり方を受け継いでいくのはもちろん大切なことだ。しかし、その文化を守ろうとするあまり、周りの人々に受け入れられなくなってしまつては、その伝統は死んでも同然である。

伝統は、私たちの生活の中で生きている。私たちの営みによって呼吸している。私たちが今なすべきことは、先輩方から受け継いだ伝統の心臓となる部分を守りつつ、後輩たちへと生きた文化を引き継ぐことではないだろうか。今後、この学び舎で過ごす者たちが二高の伝統の命を繋いでいくことを期待している。



4 在校生からのメッセージ

生徒会長 今本 創士(仙台市立寺岡中学校出身)

仙台二高と言えば、勉強というイメージが強いだろう。たしかに勉強ができるというのは二高の大きな特徴であるのは明確だ。しかしながら我々二高生は勉強以外にも、部活など自分の能力を高めるべく様々なことに日々挑戦している。それができているのは二高という質の高い環境で高校生活を送っているからに他ならない。やはり質の高い学習(ここでは能力の向上も含む)には質の高い環境が不可欠なのである。

ここで二高について少し述べておこう。二高は百二十年以上の歴史がある学校である。古き伝統があり、そこに我々は少なからず影響を受けている。そして学校として「文武一道」の精神を掲げているため、我々は部活と勉強を両立しているのだ。また、自分と同等、もしくは自分より優れている仲間と互いを高めあっている。仙台二高で高校生活を送れば心身ともに大きく成長できるだろう。君も仙台二高で充実した高校生活を送らないか。